

第1学年 音楽科学習指導案

日 時 令和 ○年○月○日 (○)
第○校時 __ : __ ~ __ : __
対 象 第○学年○組○○名
授業者 ○○○立○○○○学校
(職)○○ (氏名)○○ ○○
場 所 ○階○○教室

1 題材名 曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう

2 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に 取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

3 学習指導要領との関連

B 鑑賞 (1) 鑑賞 ア (ア), イ (ア)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素：音色、旋律、テクスチャ、強弱 用語や記号など：調、

4 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	[知] 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	[思] 音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	[態] 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 指導観

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の

(2) 生徒観

第1学年の

(3) 教材観

ア 『魔王』の特徴

『魔王』(Erlkönig)は、フランツ・ペーター・シューベルトの代表作で18歳の時に作曲したリート(歌曲)。ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの同名の詩に、少年期の作者が触発され、短時間のうちに歌曲と、伴奏を完成させた作品。ドイッチュ番号は328となっている。作品番号は1が与えられているが、これはシューベルトの作品のうち「最初に出版されたもの」を意味するに過ぎず、シューベルトはこの作品以前にすでに多くの歌曲やピアノ曲を完成させている。もっとも、出版までの間には紆余曲折があった。

イ 鑑賞教材

6 本時

(1) 本時のねらい

目標と同じ

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点 予想される発言	具体的評価規準 (評価方法)
導入 10分	○常時活動（音色・強弱・旋律）	本時の内容について理解できるよう、用語の解説をする。	【知】曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。
展開 30分	○演奏を聴き、音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感する。 ・音色や音の高さなどに注目しながら、語り手と登場人物それぞれの部分がどのように表現されているのかを聴き取り、ワークシートに記入して意見交流する。 ・子がおびえている様子を作曲者がどのように表しているのかを理解し、それらの表現の特質から生まれる曲想の変化を感じ取り、ワークシートに記入して意見交流する。 ○生活や社会の中にある特徴ある声について関心をもつ。 ・「優しい声」「怖い声」「優しかったのに恐くなった声」日常の中にあるか考える。 ・声に特徴がある職業、声の仕事となる職業	鑑賞する際に「音楽を形づくっている要素」に留意するよう促す。 ・教科書の楽譜の色部分について、比較して鑑賞する。 「親」「兄弟」「先生」「自分自身」「声優」「ボカロ」「ボイスパーカッション・ビートボックス」「駅員」「CA」「アナウンサー」 性差に配慮する。	【思】音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感しながら、知覚したことと受感したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察、ワークシート】
まとめ 10分	○声の特徴を感じて、関心をもつことができたか。		【態】曲想と音楽の構造との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(3) 本時の授業実践の視点

- ・一人ひとりの意見を尊重できたか。
- ・ワークシートの内容は適切であったか。